

博物館の解説ツールとしてのマンガの長所とその利用：企画展「手塚治虫のメッセージ」の実施とオリジナルマンガの制作から

鳥取県立博物館学芸課長

川上 靖

はじめに

鳥取県立博物館では、令和元（2019）年夏に手塚プロダクションの協力を得て、自然科学とマンガをコラボレーションさせた企画展「手塚治虫のメッセージ：人と動物、共に生きるために」（主催：鳥取県立博物館・新日本海新聞社）を行った（写真1）。人との関わりの中で消えていった動物や、今まさに地球で起きている問題を、手塚治虫の作品とともに紹介し、人と動物のあり方を考えようと企画したものである。また、外来種問題について問題提起するため、鳥取県立博物館で飼育展示しているオオサンショウウオを主人公にしたオリジナルマンガ『オオサンショウウオの恋』を制作し、会場で紹介するとともに販売も行った（写真2）。そこで、この展覧会とオリジナルマンガをふり返り、博物館における展示解説のツールとしてのマンガについて考えてみる。

企画展「手塚治虫のメッセージ：人と動物、共に生きるために」

この展覧会は、令和元年7月13日～8月25日の期間、鳥取県立博物館を会場として行った。その他の情報は当館ホームページにチラシをアーカイブしているので、そちらをご覧ください¹⁾。企画の趣旨は、第6回目の大絶滅時代と言われる現在、それもほぼ100%が人間の活動が原因とされる中、人間と動物の関係について手塚治虫のマンガの力を借りて考えてもらおうというものである。展覧会は3部構成で、まず人の影響で絶滅した、あるいは絶滅危機にある動物を紹介、次に手塚治虫のマンガを動物の剥製などとともに展示紹介した。そして最後に、現在の様々な問題を



写真1 企画展「手塚治虫のメッセージ」のパナール

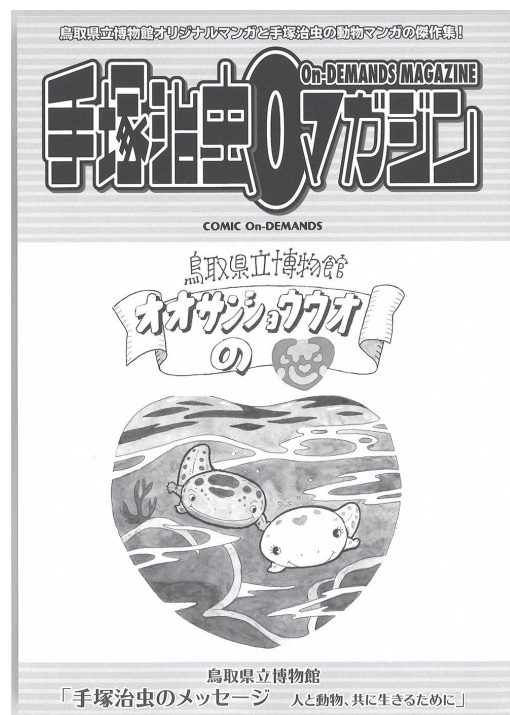


写真2 オリジナルマンガを収録したオンデマンドマガジンの表紙

取り上げ、オリジナルマンガも使って、人と動物の関係についての議論を投げかけた。

マンガの神様と言われる手塚治虫〔昭和3（1928）年～平成元（1989）年〕については、宝塚市立手塚治虫記念館もあるなどよく知られているので他に譲るが²⁾、莫大な数の作品の中には人と動物の関係を描いた傑作も多い。扱った作品は『ころすけの橋』『ロロの旅路』『山太郎かえる』『ザムザ復活』『大地の顔役バギ』『青い恐怖（ブラック・ジャック）』『オペの順番（ブラック・ジャック）』の7作品である。それぞれのマンガに登場する動物の現状について、剥製などの資料と解説パネルで紹介するとともに、マンガの原画を展示した（写真3）。『ころすけの橋』と『ロロの旅路』については、手塚プロダクションのご厚意で全ページを展示し、全編を原画で読めるようにした（写真4）。『山太郎かえる』はアニメも放映した。その他は原画の一部の展示となったが、あらすじを紹介することで作品理解を補った。

オリジナルマンガ『オオサンショウウオの恋』の制作と展示

オリジナルマンガは、原案を当館の自然担当の学芸



写真3 企画展の展示風景。奥に見える額は手塚治虫の原画



写真4 『ロクの旅路』の原画の全ページ展示

員であった私が作り、手塚プロダクションのアニメーター小林準治氏にマンガを描いていただいた（写真5）。テーマとしては、オオサンショウウオを例に外来種問題を取り上げた。国の特別天然記念物でもあるオオサンショウウオは健全な自然環境の象徴種であり、自然理解や環境保全の学習に適した動物であるが、外来種との交雑が問題になっている。一方で、近年は外来種をふくむ自然保護の考え方にも転換が起きている³⁾。このように複雑に絡み合った問題を提示するためのツールとして「マンガ」が適していると考えたものである。その理由については、後半で検証しながら議論する。

このオリジナルマンガは、手塚の動物マンガ3編とともにA4判の『手塚治虫オンデマンドマガジン』⁴⁾として会期中限定で出版し、展示室内のショップでも購入できるようにした。展示では、この本を座って読めるコーナーを作り、置いておく本数は入場者数に応じて調整した（写真6）。マンガの内容は、動物園で人工繁殖された在来種のオオサンショウウオ「サン」が、外来種のチュウゴクオオサンショウウオ「ルン」と恋に落ち、様々な事件に巻き込まれていくという物語であるが、このコーナーには在来種と外来種の標本を展示し、現実に起きている交雑の事例をパネルで紹介した。来館者は、展示を見てからマンガを読んでも、その逆でも、あるいはそれを繰り返すこともできる。また、オリジナルマンガの制作過程を構成案、ラ

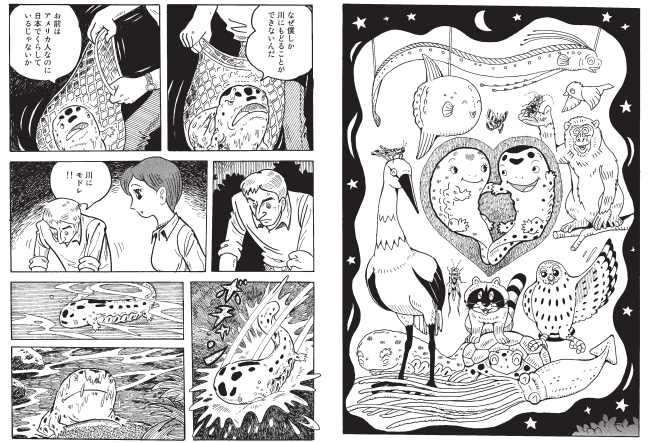


写真5 『オオサンショウウオの恋』の一部。©手塚プロダクション

フ画などを使って紹介した（写真7）。

開催結果と来館者の声

入場者数は目標8,000人に対して8,841人で、オリジナルマンガを収録したオンデマンドマガジン（1,200円）の発行数は約600部だった。来館者アンケートでは、「よかった」と回答された方が100%（大変よかった76%・よかった24%）で、「わるかった」がなかったのは異例だった。また、本展への共感や感動のメッセージが多数寄せられたが、これは「マンガ」による



写真6 オリジナルマンガ『オオサンショウウオの恋』の読書コーナー



写真7 『オオサンショウウオの恋』のラフ画の一部。©手塚プロダクション

部分が大きいと思われた。マンガの種類は多様であるが、今回紹介したマンガはストーリー・マンガ⁵⁾であり、小説や映画と同様にひとつの「物語」として来館者に伝達されたであろう。また、動物が擬人化されていることで感情移入しやすかったと思われる。これらのことが共感や感動に繋がったのではないだろうか。次に来館者からのメッセージをいくつか紹介する。

- ・人と動物との関係性についてとても考えさせられました。涙が出ました。ありがとうございました。
- ・手塚の作品・思想と鳥取県立博物館の所有する「智・物・考え」が総合的に動物への愛によって結合された一大作品になっている。すばらしい。本当に感動しました。
- ・自然史（標本）と合わせた手塚治虫の企画展は初めて見たが新鮮だった。作品の選定も絶妙です。良い展示をありがとうございました。
- ・切り口が良かった！ 素晴らしい展示でした。共に生きるために考えていきたいです。
- ・マンガからのメッセージが題材という企画はなかなかないと思った。
- ・動物と共に生きる人の気持ち、動物の気持ちのよくわかる、心温まる展示だった。
- ・難しいテーマを、コミックを使うことで身近なこととして引き寄せ、分かりやすかった。深い感銘を受けた力作で、来たかひがあります。
- ・今回作られた『オオサンショウウオの恋』のマンガがすごく良いです…！ 買いました。
- ・こういったサブカルと博物館学がタイアップした展示をもっとしてほしい。

今回の展覧会の特徴としてもう1点、博物館や教育の関係者から評価の声が多く寄せられたことがある。オリジナルマンガ『オオサンショウウオの恋』を授業などで使いたい、あるいは学校の図書館に置いておきたいと、小・中学校、高校、大学、NPO法人などから注文があった。注文は全国からあり、九州で唯一のオオサンショウウオ生息地である大分県宇佐市の教育委員会からも注文いただいた。現実の社会問題を、マンガを使って取り上げることは、学習教材としても適していると思われた。

解説ツールとしてのマンガの長所

博物館における解説ツールとして、言語のみの解説に対して、マンガの優れている点はどこにあるのだろうか。マンガの歴史は古く、表現形式も多様であるが、現代マンガにおいてはカートゥーン(1コマ・マンガ)とコミック(ストーリー・マンガ)に大別される⁶⁾。マンガの社会学的な研究をみると、社会の中でマンガ

が人々に果たしている役割について、不可能な代理体験を提供することよりは、現実社会を解釈するための枠組みを提供することにあるという主張が多い⁷⁾。

博物館における解説では、知識の伝達と、問題や議論の提起の大きく2つのケースが考えられる。前者は科学的知見の「教育」、後者は問題発見・問題解決の「学習」と言い換えてもよい。近年の博物館では、知識を伝える部分は減り、後者の「学習」が重要視されてきている⁸⁾。問題を発見し、解決に向け考える学習をするためには、まずは現実社会で起きている状況を知る必要があるが、この枠組みの提供にマンガは適しているのではないだろうか。当館で実施した企画展「手塚治虫のメッセージ」においても、『ころすけの橋』ではカモシカの天然記念物としての保護と農作物害獣としての駆除という対立する問題を「物語」という枠組みで提供できたと感じている。オリジナルマンガ『オオサンショウウオの恋』では、外来種との交雑問題や自然保護の考え方の変化などの複雑に絡み合った問題の提供を試みた。成功したかどうかは分からないが、少なくとも言語だけで伝えることは難しかったと思う。

科学的知識の伝達においては、正確さが重要であり、シンプルな方がよいので、マンガを利用するなら1コマ・マンガが向いていると思う。マンガでなく、挿し絵やイラストでもよい。この場合、言語だけの解説よりは、とっつきやすくなるのがメリットであろう。ストーリー・マンガは、正解のないような事象、例えばこの動物を駆除すべきか、繁殖放鳥すべきかなど、是非や優劣の価値判断を伴うような内容を解説するとき力発揮するものと考えられる。

マンガが得意とする表現とその利用

これまで述べてきたとおり、マンガの中でもストーリー・マンガは、価値判断を伴うような内容を解釈するために、その内容を「物語」という枠組みで提供することに適していると思われる。このことは、マンガと同様な視覚芸術であるアニメや映画(映像)にも当てはまるかもしれない。実際、すでに短編映像などは解説ツールとして使われており、当館の常設展示にもある。それでは、映像とマンガには何か違いがあるのだろうか。最後に、このことを議論し、解説ツールとしてマンガの強みを探ってみたい。

映像の場合、CGなどを除き、現実世界を撮影(コピー)して制作される。一方、マンガは描かれた絵で表現される。絵画的表現と言語的表現を用いて作られるマンガでは、目に見えないものも視覚化することができる。また、人間以外の物質や生物などを擬人化することもできる。このことにより、マンガでは心や意

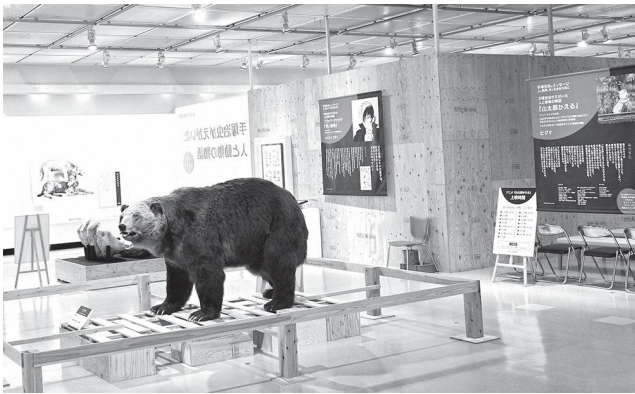


写真8 『山太郎かえる』のコーナーに展示されたヒグマの剥製

識をうまく表現できているのではないだろうか。これはアニメも同様である。

現在、世界的な社会変化を受けて、博物館でも社会的役割を考え直そうという動きがある⁹⁾。博物館の理念の根幹には、歴史系博物館なら歴史観、自然史系博物館なら自然観、科学館なら科学観などの価値観がある。これらの価値観は時代とともに変化してきたし、今後も変わる。パラダイムシフトである。私は、過去を収集している博物館こそ、ひとつの価値観に基づくことなく、既存の価値観に揺さぶりをかけ、対話的に考えていく場所であるべきと考えている¹⁰⁾。そのために、目に見えない心の動きや考え方の変化などの表現に長けているマンガは強力なツールになると思うのである。

企画展「手塚治虫のメッセージ」で展示した『山太郎かえる』のラストで、蒸気機関車“しい六”がヒグマ“山太郎”に「山太郎にげろ 人間のいないところへ

いってくらせよ」と語りかける。この物語を読んだ後、私たちはヒグマの剥製を前にして何を感じ、何を考えるのだろうか（写真8）。現在の博物館では、展示と教育学習は別の事業とするほうがよいという意見がある¹¹⁾。私もそう思う部分が多いが、展示資料とマンガ（あるいは短編映画など）を組み合わせることで、展示室を教育学習の場にできる可能性があるとも思っている。ひと口に教育学習と言っても幅は広いが、マンガを通じて展示資料に語らせることで、展示室が自ら考え学習する場になると思うのである。

まとめ（要旨）

鳥取県立博物館は、自然科学とマンガをコラボレーションさせた企画展「手塚治虫のメッセージ：人と動物、共に生きるために」を開催し、オリジナルマンガも制作した。この展覧会をふり返り、解説ツールとしてのマンガの長所を検証した結果、マンガは価値判断を伴うような内容を解釈するために、その内容を「物語」という枠組みで提供することに適していると思われる。マンガが得意とするのは、目に見えないものの視覚化や擬人化であり、正解のない問題などを学習するための強力なツールになるであろう。

最後に、企画の段階から様々なご助言をいただいた鈴木美香氏、優しさあふれるマンガを描いていただいた小林準治氏をはじめ、手塚プロダクションの皆様にご心よりお礼申し上げます。

（かわかみ・やすし）

註

- 1) <https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1072045/2019Tezuka.pdf>（または【企画展「手塚治虫のメッセージ」2019Tezuka】で検索）
- 2) <https://tezukaosamu.net/jp/>
- 3) フレッド・ピアス（藤井留美訳）（2016）『外来種は本当に悪者か？：新しい野生 THE NEW WILD』草思社。その他、エマ・マリス（岸由二・小宮繁訳）（2018）『「自然」という幻想：多自然ガーデニングによる新しい自然保護』草思社、メノ・スヒルトハウゼン（岸由二・小宮繁訳）（2020）『都市で進化する生物たち：“ダーウィン”が街にやってくる』草思社なども参考になる。
- 4) 現在は販売されていないが、国立国会図書館や鳥取県内の図書館には所蔵されている。雑誌のタイトルは『鳥取県立博物館 手塚治虫のメッセージ』である（副書名「人と動物、共に生きるために」）。別書名は『手塚治虫O（オンデマンド）マガジン』。オリジナルマンガの『オオサンショウウオの恋』が収録されている。
- 5) 永田高志（2015）マンガの物語論。渾沌：近畿大学大学院総合文化研究科紀要（Chaos）12：111-91。（ストーリー・マンガを確立したのは手塚治虫と言われている。）
- 6) 清水勲（2007）『戦後漫画のトップランナー 横井福次郎—手塚治虫もひれ伏した天才漫画家の軌跡』臨川書店。
- 7) 池上賢（2013）社会学におけるマンガ研究の体系化に向けて—データベースによる先行研究の整理・検討から—。応用社会学研究55：155-173。
- 8) 布谷知夫（2015）博物館の教育学習活動と展示との関係。三重県総合博物館研究紀要1：1-7。
- 9) 川上靖（2022）おうちで実物資料を観察する『おうちで自然観察』の報告～自然史系博物館の社会的役割を考える～。第29回全国科学博物館協議会研究発表大会予稿集：53-57。 http://jcs.jp/wp-content/uploads/2022/02/Kenkyuhapyoukai29th_8.pdf
- 10) 9) と同書
- 11) 8) と同書